

令和2年3月31日

## 令和元年度 全日制課程 学校経営報告

東京都立青梅総合高等学校長  
鈴木 信也

### 今年度の取組と自己評価

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ①学習指導（自分で「考えさせる」指導の推進）

- ア ルーブリックを活用し「考えさせる」授業を推進し、自己評価力の向上を図った。
- イ 予習・復習を前提にした授業展開を推進し、授業外学習時間の向上を図った。
- ウ 学習状況と成績の推移を把握し、生徒自ら考えさせて課題解決意欲を引き出させた。
- エ 相互授業見学や学校外研究授業参加等を推進し、教員の授業力の向上を図らせた。
- オ 自分の未来を創造する意欲を身につかせて、希望進路実現を目指させた。
- カ オンライン個別学習を取り入れた学力の着実な定着を図った。
- キ 高大接続改革に向けた取り組みを、各大学と覚書を取り交わし具体的に推進した。

\*「考えさせる授業」については、98%の教員が肯定的な回答であったが、生徒は65%しか肯定的な回答がなかった。生徒が実感する授業の推進と授業展開の一層の工夫が課題である。一方で、授業外学習時間は1年生を中心に伸びている。

##### ②進路指導（データを活用した学習・進路指導の推進）

- ア 将来を見通した視野と自己肯定感や自己有用感を育みながら、学力と受験突破力を高め、希望進路実現を果たさせた。
- イ 担当年次教科教員が全員参加して模試等の結果に基づく分析会を実施し、教科で対応策を検討し改善させた。
- ウ 進路指導部が主導して、ファインシステムやClassiを活用した指導を推進させた。

\*各種検定受験（英検・漢検・情報技術検定等）を推進し、生徒に達成感を味わわせることで、希望進路実現に向けて意欲的になり、国立大学受験挑戦者が現れた。進路指導部だけでなく学年も含めて分析力の向上が課題である。

##### ③生活指導・安全指導（規律ある学校生活の推進）

- ア 生活指導指針を徹底し、主体的に本校の生活規律を守る態度を育成した。
- イ 特にいじめの未然防止に力点を置き、いじめ総合対策に基づいた対応を図った。
- ウ 校内研修等を通して教職員同士が体罰に対して相互に看過しない体制づくりは徹底できた。
- エ 青梅総合SNSルールについて、生徒会を中心に検討し生徒へ周知していく環境を整備した。

\*学校評価アンケート「校則やマナーを守っている」肯定的回答は、生徒93%、教員98%、保護者92%になった。いじめの未然防止も徹底できた。課題は、SNSの適切な使用についての指導の徹底である。

##### ④特別活動・部活動（生徒相互が高め合い磨き合う学校行事・部活動の推進）

- ア 生徒が常に前面に出る学校行事を展開した結果、自己肯定感や達成感を得ることにつながった。
- イ 担当教員からの事前指導により、実行委員が自らの判断で動けるような自律的な行動力を育成した。
- ウ 体罰や不適切な言動のない指導を面接等において徹底し、生徒が主役の部活動づくりを推進した。
- エ スポーツ特別強化校（剣道部）都ベスト8、スポーツ特別準強化校（陸上競技部）関東大会出場等、運動部・文化部ともに相乗効果があり部活動が活性化した。
- オ 部活動単位で中学校との合同練習会や地域行事への参加等、工夫して地域貢献活動を行った。
- カ 野球のオリンピック出場選手の講演を受け、この「夢・未来プロジェクト」を通じてオリンピック・パ

ラリンピックへの機運が高まり、2020 大会に関わる意識の向上が図れた。

- キ 「世界ともだちプロジェクト」では姉妹校交流推進校として特にドイツとの交流を深め、国際交流のレガシー構築を図った。
- ク 日本の伝統・文化を発信する能力・態度の育成事業推進校としての施策を生かし、グアム修学旅行や姉妹校交流では日本の伝統文化の発信を重視し、オリンピック・パラリンピック教育を推進した。
- ケ TOKYO GLOBAL GATWAY 事業を活用したグアム海外修学旅行事前指導を実施した。
- コ 姉妹校交流の持続的可能な実施に向け、ホームステイ受け入れバンクの組織化を推進した。

\*学校行事を中心に、文芸部の全国大会出場、陸上部の関東大会出場の他、都大会ベスト16等優れた成績10部活以上等、自己表現の場として達成感や自己有用感を味わい、生徒全員の学校生活意欲向上につながった。国際交流リーディング校として、グローバルな視野の育成も推進できた。課題は、それぞれを継続し発展させ、学校として卒業後も視野に入れた生徒の指導・育成を意図的に実践することである。

#### ⑤心身の健康づくり（健康生活への組織的対応の推進）

- ア 受容的態度を基本に日常的に生徒の状況把握と情報共有を実践し、心身の健康づくりと早期ケアを充実させた。
- イ スクールカウンセラーを活用し、研修等を通じて、学校全体の相談体制・カウンセリング能力のレベルアップを図った。
- ウ 特別な支援が必要な生徒への共通理解と組織的な対応を推進するため、特別支援コーディネーターを2名体制して特別支援教育を推進し、個別案件に対して組織的に対応した。
- エ 「アクティブプラン to 2020」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりを推進した。
- オ 自他の生命の大切さを実感させる取り組みを推進するため、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を図った。

\*スクールカウンセラーや養護教諭、特別支援コーディネーターの積極的な対応により、特に心に関わる相談体制は大きく機能した。外部機関との連携も十分取れ、未然防止や早期解決につながった。学校全体で取り組むカウンセリングマインド向上のための定期的な研修の実施が課題である。

#### ⑥募集広報活動（情報発信・提供の強化と地域連携）

- ア 学校ツイッターやホームページを随時更新し、本校の教育活動をタイムリーに発信した。
- イ 総合学科としての組織的な取り組みやその成果の「見える化」を推進して情報提供した。
- ウ 近隣中学校と連携を図り、中学校教員や中学生保護者の総合学科理解を図った。
- エ 学校説明会において本校理解を推進するため、効果的で印象的な広報手段を実施した。

\*新入生による母校訪問、ツイッター年間400回以上更新、学校説明会における生徒プレゼンテーション等、本校のあからさまな教育実践の積極的な発信により中学生やその保護者、地域の方々の理解と信頼を得ることができ、入学選抜における応募人数に過去5年最高値を得た。しかし、総合学科について理解不足という大きな問題が毎年再構築される現状の中、本校理解の安定化を図ることが課題である。

#### ⑦学校経営・学校運営（連携と育成、体制の確立）

- ア 西部学校支援センター支所との連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤を強化した。
- イ OJT を活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を推進した。
- ウ 生徒や保護者、地域住民からのアンケートに基づいた「期待に応える学校づくり」を推進した。
- エ 管理職が率先して「ライフ・ワーク・バランス」を示し、全教職員の働き方改革を図った。

\*西部学校支援センター支所との連携で、人材育成として主任教諭4名の合格者を出した。これらの教員が来年度の主力として活躍できるよう分掌配置等を進める。評価アンケートを基に各分掌で分析させ、来年度につながる方針を出させ、期待に応える学校づくりをさらに推進させることが課題である。

(2) 次年度以降の課題と対応策

- ① 考えさせる授業推進 青総スキルやルーブリックを活用した「考えさせる授業」の実践。
- ② 挑戦する生徒の育成 各種検定受験を促し、部活を奨励し達成感や自己有用感をコツコツと蓄積。
- ③ 高大接続改革の継続 情報収集を進め研修会で共有。特に農業系大学と連携強化。
- ④ 読書活動の推進 授業やHR等も含めた教育活動全体で図書館を意図的に活用。
- ⑤ 授業外学習時間の増加 各教科が計画的に推進。補習・補講体制の確立。自習室の積極的な活用。
- ⑥ 総合学科としての本校アピール 各種アンケート等を分析し、期待に応える学校づくりを継続。
- ⑦ 教育相談機能の充実 組織的な対応と教員のカウンセリングマインドの向上。

令和元年度の数値目標と昨年度の実績

数値目標	令和元年度 目標	今年度 実績
① 進路決定率	100%	100%
② 大学合格者数		
ア 国公立大学合格者	ア 1名	ア 2名 (国立)
イ 難関私立大学合格者 (早慶上智理)	イ 2名	イ 0名
ウ 私立大学合格者 (日東駒専以上)	ウ 35名	ウ 36名
エ 農業系大学合格者 (ウ以外)	エ 10名	エ 14名
オ 看護系大学等合格者	オ 希望者全員合格	オ 16名 (全員合格)
③ 資格取得		
ア 英語四技能 (GTEC : GRADE4)	ア 30名	ア 73名
イ 漢字検定準2級以上	イ 30名	イ 26名
④ 授業外学習時間	平日 学年+1時間 休日 学年+2時間	年間全生徒平均1時間 (調査方法・時期に課題あり)
⑤ 部活動加入率	95%	80%
⑥ ツイッター・ホームページ 更新数	310回	400回
⑦ 図書館貸出冊数	3000冊	2950冊
⑧ 学校説明会等参加人数 (中学生・保護者合計)	3000名以上	2800名
⑨ 入学者選抜応募倍率		
ア 推薦入学	ア 2.58倍	ア 2.56倍
イ 学力検査	イ 1.31倍	イ 1.34倍
⑩ 農業科・家庭科 地域連携活動回数 (新規)	30回	40回
⑪ 学校満足度 (肯定的回答)		
ア 生徒	ア 82%	ア 76%
イ 保護者	イ 95%	イ 93%